

経営比較分析表（平成29年度決算）

佐賀県 玄海町

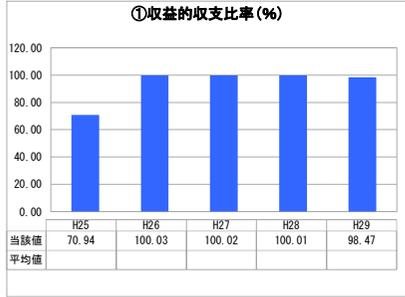
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	75.96	100.00	3,450

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,731	35.92	159.55
処理区域人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,310	1.46	2,952.05

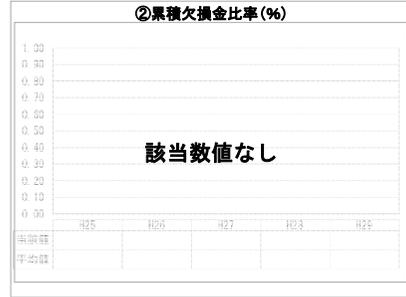
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



「単年度の収支」



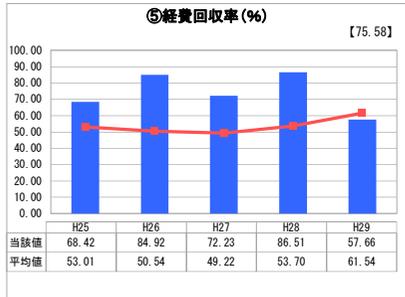
「累積欠損」



「支払能力」



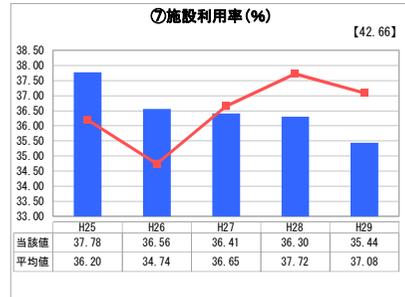
「債務残高」



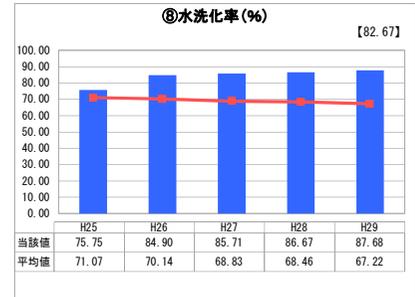
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

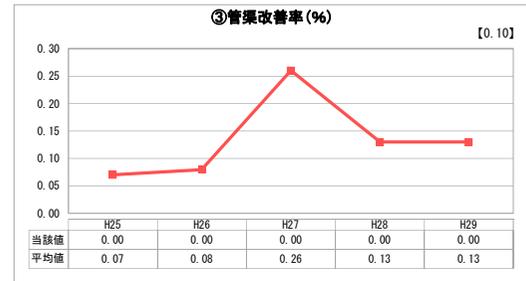
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率と経費回収率からわかるように、収支不足分を一般会計繰入金に依存した状態となっている。特に平成29年度については、施設の老朽化等への維持管理に要する経費が増大したことにより、経費回収率の減、汚水処理原価の増となり、繰入金への依存度が上昇する結果となった。

また、施設利用率については、毎年度減少傾向にあり、全国平均、類似団体平均共に当町の数値が下回っている。これについては、平成30年度以降、大規模な社員寮等の新規建設による接続が見込まれ、利用率の増につながる事が予測されるが、人口が減少傾向にあることも加味し、今後の変動に注視する必要がある。

2. 老朽化の状況について

南部浄化センターの供用開始が平成18年度、北部浄化センターの供用開始が平成22年度となっており、現時点で耐用年数を超えた施設、管渠等はないが、機械等の故障による修繕費用が発生し始めている。そのため、長期にわたる修繕計画・ストックマネジメントを精査し、更新計画に乗った老朽化対策を講じる必要がある。またそれにあわせて財源の確保にも努める。

全体総括

計画区域内の管渠布設等が完了し、老朽化対策を講じる時期に差し掛かっているため、経営戦略等による将来的な試算及び適正な施設規模など随時分析を行い、将来にわたって安定的なサービスの提供が行えるよう経営の健全化を図り、効率的かつ適正な事業運営を目指す。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。